

Title	近世中後期における仏教教団の地域的編成と対幕藩交渉
Sub Title	Regional formation and connection with the Bakufu-domain lords by the Buddhist sects in the late Edo period
Author	上野, 大輔(Ueno, Daisuke) 松金, 直美(Matsukane, Naomi) 林, 晃弘(Hayashi, Akihiro)
Publisher	
Publication year	2018
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	研究期間全体を通じて概ね順調に取り組みを進めることができた。すなわち、本山・触頭寺院や幕藩領主と関わる諸文献を検討することで、事実関係や論点を整理し、新たな成果を順次、学会報告や論文によって発信した。これにより、日本の近世中後期における仏教教団の地域的編成とそれに基づく幕藩領主との交渉について究明し、政教関係論の構築に繋げることができた。日本近世史以外の研究者も交えた学会・図書での成果の発表も実現した。 I was able to execute the research plan almost smoothly. By examining documents related to head temples and Bakufu-domain lords I arranged the facts and arguments. And I compiled new results as academic presentations and papers in turn. Thus I revealed regional formation and connection with the Bakufu-domain lords by the Buddhist sects in the late Edo period, and built a historical image on the relationship between politics and religion. In addition, I also disseminated results at interdisciplinary academic societies and books.
Notes	研究種目：若手研究(B) 研究期間：2015～2017 課題番号：15K16830 研究分野：日本近世史
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_15K16830seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 30 年 5 月 25 日現在

機関番号：32612

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16830

研究課題名(和文) 近世中後期における仏教教団の地域的編成と対幕藩交渉

研究課題名(英文) Regional formation and connection with the Bakufu-domain lords by the Buddhist sects in the late Edo period

研究代表者

上野 大輔 (Ueno, Daisuke)

慶應義塾大学・文学部(三田)・准教授

研究者番号：90632117

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000 円

研究成果の概要(和文)：研究期間全体を通じて概ね順調に取り組みを進めることができた。すなわち、本山・触頭寺院や幕藩領主と関わる諸文献を検討することで、事実関係や論点を整理し、新たな成果を順次、学会報告や論文によって発信した。これにより、日本の近世中後期における仏教教団の地域的編成とそれに基づく幕藩領主との交渉について究明し、政教関係論の構築に繋げることができた。日本近世史以外の研究者も交えた学会・図書での成果の発表も実現した。

研究成果の概要(英文)：I was able to execute the research plan almost smoothly. By examining documents related to head temples and Bakufu-domain lords I arranged the facts and arguments. And I compiled new results as academic presentations and papers in turn. Thus I revealed regional formation and connection with the Bakufu-domain lords by the Buddhist sects in the late Edo period, and built a historical image on the relationship between politics and religion. In addition, I also disseminated results at interdisciplinary academic societies and books.

研究分野：日本近世史

キーワード：日本史 近世史 仏教史 触頭 組合 講 幕藩領主 政教関係

1. 研究開始当初の背景

1990年代以降の日本近世史研究において宗教論が大きな進展を見せ、国家・社会との関わりで仏教・神道・キリスト教をはじめとする様々な宗教が取り上げられた。とはいえ、仏教教団と幕藩領主の双方に着目した政教関係論については、開拓の余地が大きく残されているように思われた。

仏教教団が幕藩領主と交渉する際には、地域的な編成方式をとった本山—触頭寺院—組合寺院の組織が重要な機能を果たしたはずである。本山のもとにある各地の触頭は、幕藩領主に対する教団の交渉窓口であった。また触頭の下部組織として、近隣寺院同士の結合体である組合が発達する場合があった。

この組織は、幕藩領主との交渉はもとより、教団の自律的運営を実現する基盤ともなっていたと予想された。加えて、地域民衆の結びつきは近隣の特定寺院と繋がる場合があったので、本山—触頭—組合と講よりなる、民衆を含めた教団の地域的編成が想定された。

尤も、このような地域的編成に関する研究蓄積は極めて少なく、先行研究の部分的な指摘を超えて体系的な究明を進める必要があった。

一方、仏教教団に対応する幕藩領主の機構とそこでの政務についても、本格的な研究はあまりなされてこなかった。寺社奉行をはじめとする幕府・藩の諸役職については一定の研究蓄積があったとはいえ、仏教教団と関連づけた寺社行政機構の体系的な究明が課題であった。

以上のように、仏教教団と幕藩領主の双方を関連づけながら究明することで、新たな政教関係論を開拓することが課題として浮上していた。

2. 研究の目的

仏教教団の地域的編成とそれに基づく幕藩領主との交渉について具体的な究明を進め、新たな政教関係論の構築に繋げることが本研究の目的である。仏教教団と幕藩領主との交渉に関しては、両者の管轄事項の区分も明らかにする。対象とする時期は、仏教教団の地域的編成が全国規模で確立し、関連史料が多く蓄積されるようになる近世中後期（18世紀～19世紀半ば頃）である。

当面は、真宗の事例を中心に取り上げる。真宗は近世に大規模教団として展開し、本山や各地の触頭などには豊富な史料が伝存している。併せて、江戸幕府・長州藩なども視野に入れる。長州藩では真宗が最大の宗教勢力をなし、山口県文書館にも関連史料が伝存している。

なお、研究を効果的・効率的に進めるため、松金直美（真宗大谷派教学研究助手）と林晃弘（東京大学史料編纂所助教）を研究協力者とする。松金は東本願寺の教学統制を、林

は江戸幕府の寺社政策を、それぞれ主な検討対象とする。

3. 研究の方法

西本願寺・東本願寺（共に京都）などの本山、築地御坊（江戸）・清光寺（萩）など全国各地の触頭、その下に編成された組合に関する史料を中心に、調査・検討を行った。自治体史・寺史などの既刊の文献に加え、本願寺史料研究所・龍谷大学図書館・大谷大学図書館・築地本願寺・富山県公文書館・金沢市立玉川図書館近世史料館・横須賀市総務部総務課市史編さん係などに所在する未刊史料を活用した。

これと並行して、江戸幕府・長州藩などの幕藩領主側の史料を調査・検討した。既刊の文献に加え、国立公文書館・国文学研究資料館・山口県文書館などの未刊史料を活用した。

また、本興寺（兵庫県尼崎市）・成菩提院（滋賀県米原市）などの史料の調査を行い、真宗以外の事例についても検討した。

他方で、先行研究の吟味を行い、研究史上の課題や本研究の位置づけについて考察した。

以上を通じて、本研究課題と関わる事実関係・論点の掘り起こしを進めた。なお、研究費は図書の購入や史料調査・学会への出張などに充てた。

4. 研究成果

研究成果については、学会報告や論文発表によって順次公にした。成果の概要を、以下に整理したい。

(1) 仏教教団の地域的編成

近世の仏教教団には、本山—触頭—組合と講からなる地域的な編成方式が内包されていることを示した。その際、主に真宗の事例を手がかりとした。

西本願寺教団の触頭には、「録所」「触頭」「触口」の序列があり、管轄地域の規模や支配権の程度に差があった。触頭には職務のための組織が整えられ、役寺・役僧等が出仕した。また、触下寺院は組合に編成される場合があった。そして触頭—組合の枠組で各種の伝達や相互の規制・扶助などが実現した。

長州藩では、「録所」となる清光寺のもとで17世紀半ば頃に組合が定められ、天和2年（1682）に組合の世話役である組頭が設置された。そして近世後期には、一行政村程度から一郡近くまでの範囲にわたる規模の組合が、藩領全体で確認できる。

一方、築地御坊は関八州に甲斐・駿河・伊豆・陸奥・出羽を加えた13ヶ国を支配する「録所」となり、幕府との交渉にも当たった。近世後期の築地御坊配下の組合は、幕領や藩領の状況も考慮した編成をとっており、「触頭」「触口」が含まれ、その下で更に組合が

編成され、重層化した模様である。

築地御坊の配下に属した相模国三浦郡の最宝寺は西本願寺の直末でもあったが、18世紀半ばに同郡の西本願寺直末10ヶ寺との間で争論を繰り広げる。その中で最宝寺は「触頭(格)」を志向するも、同郡の「触口」としての地位がひとまず確定した。

この争論の背景には、本末制度上の並列関係を前提に触頭制度上の関係を如何に調整するかという問題があり、「録所」や「触頭」とは異なり支配権を持たない「触口」の地位が、最宝寺に認められる結果となった。

かくして、その地位を逸脱しないよう文言上の配慮もなされつつ、最宝寺から三浦郡の同派寺院へ触が伝達されることとなる。とはいえ、触伝達に伴う権力関係が消え去るわけではなく、最宝寺が西本願寺側の意向を掲げ郡内で主導権を発揮する場合もあった。

ところで真宗では、20~30戸程度の講中が毎月1、2度、最寄りの真宗寺院の僧侶を招いて小寄講を開催したことが知られている。こうして地縁的信仰集団としての教団が成立するが、ここでは信仰組織と経済組織(集金組織)が一体化していた。また、講が寺院組合を含む組織として、大規模に展開する場合もあった。この点、美濃国の東本願寺派や摂津国・河内国の西本願寺派をはじめ、多くの事例を確認できる。

以上のように、門徒が近隣寺院と繋がり、近隣寺院同士は組合を形作り、幾つかの組合が集まって触頭の下部組織として統括され、更に全国の触頭を本山が統括するというように、地域の自律的な結合体を基盤として教団が存立した。

(2) 仏教教団と幕藩領主の交渉

近世前期に幕府や藩の役職が形成され、本山・触頭との組織的な繋がりに基づいて交渉がなされるようになった。このような関係は、近世中期以降に成熟を遂げる。

幕府老中の指揮・監督下にある寺社奉行は江戸触頭と繋がると共に、全国の寺社問題を管轄したが、自己の権限に収まりきらない問題に、評定所の一員として臨むこともあった。京都では、所司代が門跡との繋がりを保持する一方、町奉行が寺社を管轄することとなった。京都以外の遠国奉行・代官らも管内寺社を支配した。

諸藩に関しては、領内寺社を管轄する寺社奉行のみならず、江戸触頭と繋がる江戸留守居、本山・本所と繋がる京都留守居なども視野に入れる必要がある。こうした組織を踏まえ、政務遂行の理念も含めて、寺社行政を把握することが求められる。

例えば、西本願寺教団最大の宗教紛争である三業惑乱をめぐる西本願寺・幕府間の交渉においては、教団の担う宗教的範疇と幕藩領主の担う政治的範疇の棲み分けが確認できる。特に、教学統制権の本山(機関としての門主)への帰属が交渉当事者に認識されてい

る点は注目される。

「宗意(教えの中身)は寺務の第一」と言われ、武家領主の役所や百姓身分が関与することではないとされていることにも示されるように、身分に対応する職分として、幕藩領主に対応する政治的範疇と僧侶に対応する宗教的範疇が棲み分けをしているものと考えられる。これは、近世身分制社会特有の政教の棲み分けである。

近世においては、身分制に基礎づけられた独自の関係構造として、教団・幕藩領主間の組織や理念が定着する一方で、矛盾や齟齬も発生し、様々な弥縫が試みられた。本末制度や触頭制度をはじめとする複数の編成方式を内包する教団には矛盾も生じ、また教団の内紛が対幕藩交渉に曲折をもたらす場面は三業惑乱にも見受けられる。

更に、幕藩領主が一定の宗教的中立性を有する一方で、完全に世俗化された存在だったわけではない点にも、注意が必要である。例えば災害時の供養・祈祷命令のように、幕藩領主は鎮魂呪術的儀礼を政策的に遂行した。そして寺社が動員される中、このような儀礼を行えない真宗僧侶も対応を迫られる場合があった。その際、如何に幕藩領主支配と教団自治を両立させるかが、求められた。

近世後期の真宗学僧が幕藩領主に対して祈祷に関する立場を説明した史料もある。そこからは、真宗に帰依すれば自動的に現世利益の機能も発揮されるという論理と、信心を得て報恩の心持ちで国や民、仏法のために祈祷するという論理を、抽出することができる。後者は、祈祷を否定・禁止する立場から逸脱するようにも見える。

当該期の真宗教団においては、幕藩領主支配と教団自治を両立させるための試行錯誤の中で、これらの論理が主張されることとなった。それを以て幕藩権力に屈したと評することもできようが、同時に教団が担うものとしての教義が放擲されなかったことも確認でき、このような両面性や緊張関係を念頭に真宗学僧の営為を捉える必要がある。

(3) 都市寺院の編成・運営

都市には寺町のような、寺院の密集する区域があり、そこでも組合が形成されることがあった。同じ宗派の寺院からなる一宗組合だけでなく、宗派を超えて繋がる諸宗組合も確認できる。後者の場合は、特定宗派の下部組織としては機能し得ないが、触の伝達や、その他の都市生活維持のために機能した。

ここで、摂津国尼崎城下の寺町とそこに所在する本興寺(法華宗)の事例に言及したい。同寺は、京都の本能寺と並ぶ本山であった。

寺町では月番の2ヶ寺が、尼崎藩や幕府の触の伝達を含む職務に従事した。寺町の内部は、宗派を超えた幾つかの組合に編成され、本興寺も加わっていたが、元治元年(1864)に藩命を受け離脱している。

同寺では、塔頭8坊が交代で役者となって

住持のもと寺務を担い、尼崎藩寺社奉行所や大坂町奉行所との交渉にも当たった。同寺はまた、江戸触頭の丸山本妙寺・芝長応寺を介して幕府寺社奉行所とも繋がった。

(4)研究成果の特色と今後の展望

本研究は、仏教教団の地域的編成とそれに基づく幕藩領主との交渉を具体的かつ体系的に究明することで、近世日本の政教関係をめぐる新たな知見を提示するものである。この成果は、他の研究者にも、事例分析に際しての基本的な枠組を提供し得るものであり、関連する研究の進展を促すことが予想される。

また、日本近世史以外の分野との議論の架橋も期待される。日本中世史・近代史研究における政治と宗教をめぐる議論に、本研究の知見を繋げることで、政教関係史の長期的・段階的な把握に向けて前進できよう。更には、ヨーロッパ近世史研究における政教関係論との交流の道も開かれるはずである。こうした研究の広がりを実現することは、引き続き重要な課題である。

併せて、史料に即した事例研究も継続する必要がある。まず、清光寺の事件をめぐる西本願寺・長州藩間の交渉について、論文として発表したい。また、三業惑乱時の築地御坊を介した西本願寺・幕府間の交渉についても、更なる論文発表を目指している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計12件)

上野 大輔、〔書評〕朴澤 直秀著『近世仏教の制度と情報』、歴史評論、査読有、第802号、2017、pp.92-96

上野 大輔、近世仏教教団の領域的編成と対幕藩交渉、日本史研究、査読無、第642号、2016、pp.81-105

〔学会発表〕(計13件)

上野 大輔、近世後期真宗学僧の国家祈禱論、2017年度佛教史学会学術大会、2017

上野 大輔、築地御坊配下寺院の編成と触伝達 ―相模国三浦郡最宝寺文書を手がかりに―、第56回近世史サマーセミナー、2017

上野 大輔、「寛容」をめぐる政権と仏教勢力、慶應義塾大学 2017 年度山本敏夫記念文学部基金講座「宗教と社会」、2017

上野 大輔、近世仏教教団の領域的編成と対幕藩交渉、2015年度日本史研究会総会・大会共同研究報告、2015

〔図書〕(計8件)

都市史学会編(上野 大輔も分担執筆)、丸善出版、日本都市史・建築史事典、2018、頁数未定

佛教史学会編(松金 直美・上野 大輔も分担執筆)、法蔵館、仏教史研究ハンドブック、2017、410(266-267、272-273、286-287、312-313)

本興寺編、岩城 卓二・上野 大輔・幡鎌一弘・三浦 俊明監修、清文堂出版、本興寺文書第四巻、2016、367

本興寺編、岩城 卓二・上野 大輔・幡鎌一弘・三浦 俊明監修、清文堂出版、本興寺文書第三巻、2015、382

〔その他〕

ホームページ等

<https://k-ris.keio.ac.jp/Profiles/217/0021626/profile.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

上野 大輔(UENO, Daisuke)
慶應義塾大学・文学部・准教授
研究者番号：90632117

(2)研究協力者

松金 直美(MATSUKANE, Naomi)
真宗大谷派・教学研究所・助手
研究者番号：10549554

林 晃弘(HAYASHI, Akihiro)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：10719272